

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F113310103028	設置等組織名	グローバル・メディア・スタディーズ学部メディア工学科(予定)
大学名	駒澤大学	設置区分	私立	事業計画名	駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部における学科の新設
学校種	大学	都道府県	東京都		

1. フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限りの記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1	①新学科設置に関する市場調査（令和5年12月） ②他大学等への訪問（施設設備、カリキュラム編成等） ③既存建物の改修工事検討 ④設備、備品等の検討 ⑤設置認可申請に向けた詳細な需要調査（令和6年10月） ⑥新学科設置に関する広報（令和7年3月） 本学に既に設置されているグローバル・メディア・スタディーズ学部（現在はグローバル・メディア学科のみ）に、メディア工学科を設置する計画を決定する。他の学部の新編などを行わず、設置準備室を設置するなどし、本学における検討体制の構築を実施する。過去においても、学科の新設は行っており、各専ら部による機関決定の後、設置準備室を中心として設置準備を行ってきた。学長室事務室と設置準備室が中心となり、学長のリーディングのもと、入学選抜においては本学の入学センター、カリキュラム編成においては本学の教務部、卒業後の進路については本学のキャリアセンターなど、学内の関係部署と連携して計画を詳細化する。認可申請作業については、過去の経験から本学の総務部において取り扱う。実施する。	●事業計画の変更※「計画変更承認申請書」提出・「承認通知書」受領済 当初の事業計画は、本学において平成21年度以降学部・学科の設置を行っており、また理系の学部の新設実績も確かな中、中でも決定したものである。そのため、事業計画を進めていく中で、当初の事業計画では十分ではないことが判明した。まず、市場調査及びコンサルティングについて、当初の計画では新学科設置検討決定等に関するアンケート調査のみを外出する計画だったが、調査だけでは不十分な結果を踏まえ、外部より新学科設置検討決定等に関するコンサルティング等の支援業務を含めて外部の業者に依頼し、効果的かつ効率的な設置計画のブラッシュアップが図れることが判明した。このため、令和5年度において市場調査委託に係る経費を増額するとともに、令和5年度及び令和6年度においてコンサルティングに係る経費を新たに計上する必要がある。また、需要調査については、当初の見積もりが十分ではなく、本学の要請に際しては、より多くの回を要することが判明した。このため、令和6年度における需要調査委託に係る経費を増額する必要がある。さらに、広報について、新学科設置検討期間を1か月程度に短縮したため、広報活動を行うことが難しくなることが判明した。このため、令和5年度において広報に係る経費を新たに計上する必要がある。（承認日：令和6年1月22日） ●事業計画の改組内容変更の検討 入学定員を50人から45人に変更して検討中。 新学科の名称変更を検討中。 上述のとおり、市場調査と併せて市場調査結果を踏まえたコンサルティング等の支援業務を依頼するための計画変更に伴い、外部業者との契約期間が後ろ倒しとなったため、①～⑥の工程の実施時間が令和6年度にかかることとなった。現在、カリキュラムを含め、具体的な教育課程編成案を策定中である。	R5年度自己評価	【2】計画を十分に実施していない。 左記のとおり、市場調査と併せて市場調査結果を踏まえたコンサルティング等の支援業務を依頼するための計画変更に伴い、外部業者との契約期間が後ろ倒しとなったため、①～⑥の工程の実施時間が令和6年度にかかることとなった。現在、カリキュラムを含め、具体的な教育課程編成案を策定中である。
			R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2	認可申請 又は提出 新学科設置認可申請（令和7年3月）	令和8年3月 グローバル・メディア・スタディーズ学部社会メディア工学科（仮称）設置に係る認可申請（承認日：令和6年11月25日）		
	①既存建物の改修工事（令和7年10月） ②設備、備品等の購入（令和7年10月） 設置認可申請から新学科の新設までにおける施設・設備整備を実施する期間においては、学長室事務室と設置準備室が中心となり、本学の総務部と連携して教室、備品などを整備する。ICT設備については、本学の総合情報センターとその委託業者が本学全体のICT設備を管理・運用しており、それらが連携して整備を行う。		○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3	開設 又は定員編 新学科開設（令和8年4月）	令和9年4月 グローバル・メディア・スタディーズ学部社会メディア工学科（仮称）開設（入学定員50人、編入学定員若干名、メディア学関係）（承認日：令和6年11月25日）		
			○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3	①新学科開設に関する広報 ②学生募集活動 ③他大学等への訪問 新学科の開設から完成年度までにおける自治化戦略の深化に向けた取組を実施する期間においては、既存のグローバル・メディア・スタディーズ学部の教授会および、新設するメディア工学科の学科会議の教員が責任を持ってカリキュラムを運営する。		○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は 学部等の廃止		令和8年9月 グローバル・メディア・スタディーズ学部グローバル・メディア学科50人減員に係る届出（メディア学関係）（承認日：令和6年11月25日） 令和9年4月 グローバル・メディア・スタディーズ学部グローバル・メディア学科50人減員（入学定員257人、編入学定員若干名、メディア学関係）（承認日：令和6年11月25日）		

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	駒澤大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組み計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。	カリキュラムの設計段階であるため計画が進んでいない。具体的な教育課程編成案が決定されたのちに、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う。				
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☐ チェック			
計画通りに進んでいる	☐ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の適定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時まで、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。	カリキュラムの設計段階であるため計画が進んでいない。具体的な教育課程編成案が決定されたのちに、委託研究、共同研究、異学研究寄付について、外部機関等との協議を行う。				
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☐ チェック			
計画通りに進んでいる	☐ チェック					

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	駒澤大学
-------------	-------	-----	------

②

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☐ チェック

③

選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）ア（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

☒ チェック

④

文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

☒ チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携関係科目等に限らない）

☐ チェック

a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施

☒ チェック

b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施

☐ チェック

c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学ではすでに、関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目を実施している。前述した世田谷プラットフォームにおいて、授業と教員を交換する制度をすでに実施している。また前述した東大グループとの連携をすでに実施している。フェーズ1 期間中においては、それらに基づき、実施する授業科目、実施する実践的実習の内容等について計画する。	本学を含めた区内6大学等で構成される「世田谷プラットフォーム」において、世田谷6大学コンソーシアム連携授業事業を展開しており、令和5年度後期には、教養教育科目として東京都立大学理工学部教授による授業を開講し、本学における理系科目の充実を図るとともに、そのニーズを確認した。なお、同事業において令和6年度後期には教養教育科目として国士館大学文学部講師による「教育データサイエンスの理論と方法」に関する授業を開講する。なお、企業との連携については未実施である。	現在カリキュラムを設計中のため、具体的な教育課程編成案が策定されたのちに、地域における特定成長分野の人材を必要としている企業等と設置構想に関する事前協議を行うとともに、他機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う。

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

☒ チェック

a.入学者選抜における科目の見直し

☐ チェック

b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組

☐ チェック

c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）

☒ チェック

d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）

☒ チェック

e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
入学者選抜における科目の見直しについて、GMS学部においては、設置当時より、入学者選抜において選択できる科目に数学を含んだり、数学科目においてブラダランクに関する問題を出題するなど、科目の見直しや科目内の出題内容の見直しを行っている。近年は以下4年間の科目情報と選択科目に含めると、検討を進めている。フェーズ1 期間中、これらの科目や内容を見直す予定である。社会人学生の受け入れ強化について、本学では社会人学生の受入れをすでに行っている。公開講座等においては仏教分野科目・歴史分野科目・文化分野科目などへ、周辺住民から多数の受講者がおり、オンライン公開講座等では全国から受講者がいる。フェーズ1 期間中においては、そうした需要を調査し、社会人学生の受け入れ強化を図る。留学生の受け入れに強化して、本学では2023年度より国際型選抜を実施する。海外での学習経験等を評価し多様な経路を生み出しグローバルに活躍できる学生を受け入れることを目的としている。フェーズ1 期間中においては、この選抜を利用した生徒の出身地域や数などを調査し、それを強化する地域などについて検討する。	入学者選抜における科目の見直しについて、カリキュラムの検討と合わせて科目の選定について検討している。数学の科目について、現在は、本学の選抜における科目を「数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B（数Ⅲ）」の選択科目としている。現在の検討においては、現在の選抜の科目について数Ⅲは必須とせず、現在の科目のまま、選択する必要がある科目とし、入学後のカリキュラムを工夫することによりメディア学部および工学（情報学）の教育を行うことを検討している。 社会人学生の受入れ強化に向けた取り組みとして、本学が地域一般に向けて開講している公開講座において令和5年度に「教養として学ぶデータサイエンス-AI講座」を開講したところ77人の参加があった。受講者年齢は10代が680代までと幅広く、とりわけ40代から60代が全体の70パーセント以上を占め、この分野におけるリカレント・リスキリング教育への需要が高まることが判明した。 留学生の受け入れ強化について、本学では入学者選抜において令和5年度より国際型選抜を実施しており、前年度まで実施していた同様の入学者選抜方式と比較し、受験者数が増加(令和4年度：26人、令和5年度：30人)している。この選抜を利用した生徒の出身地域や数などを調査・分析を行っている。	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	駒澤大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経費補償基金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの承認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>承認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>承認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	承認を受けている	☒ チェック	承認の対象に該当しない	☐ チェック	
承認を受けている	☒ チェック					
承認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組み計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。	カリキュラムの設計が完了したため、令和7年度より、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う。				
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☐ チェック			
計画通りに進んでいる	☐ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の適定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時まで、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	駒澤大学
-------------	-------	-----	------

②

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☐ チェック

③

選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）ア（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

☒ チェック

④

文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

☒ チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携関係科目等に限らない）

☐ チェック

a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施

☒ チェック

b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施

☐ チェック

c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学ではすでに、関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目を実施している。前述した世田谷プラットフォームにおいて、授業や教員を交換する制度をすでに実施している。また前述した楽天グループとの連携をすでに実施している。フェーズ1期間中においては、それらに基づき、実施する授業科目、実施する実践的実習の内容等について計画する。	本学を含めた区内6大学等で構成される「世田谷プラットフォーム」において、世田谷6大学コンソーシアム連携授業事業を展開しており、令和5年度後期には、教養教育科目として東京都市大学理工学部教員による授業を開講し、また、令和6年度後期には教養教育科目として国士館大学文学部講師による「教育データサイエンスの理論と方法」に関する授業を開講し、本学における理系科目の充実を図るとともに、そのニーズを確認した。なお、企業との連携については未実施のため、令和7年度より取組を行う。	カリキュラムの設計が完了したため、令和7年度より、地域における特定成長分野の人材を必要としている企業等と設置構想に関する事前協議を行うとともに、他機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う。

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

☒ チェック

a.入学者選抜における科目の見直し

☐ チェック

b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組

☐ チェック

c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）

☒ チェック

d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスクリングへの対応）

☒ チェック

e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
入学者選抜における科目の見直しについて、GMS学部においては、設置当時より、入学者選抜において選択できる科目に数学を含んだり、数学科目においてブラダラングに関する問題を出題するなど、科目の見直しや科目内の出題内容の見直しを行ってきた。近年はいくつか専門科目や選択科目を含めると、検討を進めている。フェーズ1期間中に、これらの科目や内容を見直す予定である。社会人学生の受け入れ強化について、本学では社会人学生の受入れをすでに行っている。公開講座等においては仏教分野科目・歴史分野科目・文化分野科目などへ、周辺住民から多数の受講者がおり、オンライン公開講座等では全国から受講者がいる。フェーズ1期間中においては、そうした需要を調査し、社会人学生の受け入れ強化を図る。留学生の受け入れに強化について、本学では2023年度より国際生選抜を実施する。海外での学費奨励等を評価し多様な経路を生かしてグローバル化に貢献できる学生を受け入れることを目的としている。フェーズ1期間中においては、この選抜を利用した生徒の出身地域や数などを調査し、それを強化する地域などについて検討する。	入学者選抜における科目の見直しについて、カリキュラムの検討と合わせて科目の選定について検討している。数学の科目について、現在は、本学の選抜における科目を「数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B（数Ⅲ）」の選択科目としている。現在の検討においては、現在の選抜の科目について数Ⅲは必須とせず、現在の科目のまま、選択する必要がある科目とし、入学後のカリキュラムを工夫することによりメディア学部および工学（情報学）の教育を行うことを検討している。 社会人学生の受入れ強化に向けた取り組みとして、本学が地域一般に向けて開講している公開講座において令和5年度は「教養として学ぶデータサイエンス・AI講座」、令和6年度は「データサイエンス入門講座 統計とデータ分析の基礎」を開講した。令和5年度の講座については77人の参加があり、令和6年度の講座については14人の参加があった。受講者年齢はいずれの講座も受講者の年齢層が幅広く、この分野におけるリカレント・リスクリング教育への需要が高いことが判明した。 留学生の受け入れ強化について、本学では入学者選抜において令和5年度より国際生選抜を実施しており、令和4年度まで実施していた同様の入学者選抜方式と比較し、受験者数が増加(令和4年度：26人、令和5年度：30人、令和6年度：30人)している。この選抜を利用した生徒の出身地域や数などを調査・分析を行っている。	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	駒澤大学
-------------	-------	-----	------

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

区分	指摘事項等	対応状況
実施状況報告書留意事項（R6年度）	当初の計画を抜本的に見直すため、事業計画に遅れが生じている。カリキュラム等の学科設置に係る構想を早期に策定し、学科設置に向けた検討を進めること。	グローバル・メディア・スタディーズ学部のカリキュラムに無い数学などの新設科目の設計及び既存科目との統廃合の調整のため、学内教職員で設計したカリキュラム案をコンサルティング業者と検討したところ、大幅な見直しが必要となる指摘を受け、既存科目の統廃合の調整を含むカリキュラム案の再検討に、計画より更に5か月程度必要となった。このため、新学科の科目を担当する教員の手配についても、認可申請を行う予定だった令和6年度中に教員採用ができない状況となり、以上のことから、学科の新設を令和8年度から令和9年度に遅らせることとした。（大学・高専成長分野転換支援基金助成金に係る事業遅延届提出済み（令和6年10月24日付））なお、カリキュラムの設計についてはコンサルティング業務を委託している業者に助言を仰ぎつつ作成を進め、科目の統廃合等は新学科教員及び教務部との調整を行った。その後、グローバル・メディア・スタディーズ学部での審議を経て、令和6年中にカリキュラム案を完成させ、カリキュラム案を基に令和6年度3月に全学の教授会で学科の新設を審議了承した。カリキュラム案の完成に合わせて新学科の科目担当教員の採用手続に着手しており、令和7年7月までに教員を確保するためのスケジュールの見通しが立っている。

大学名	駒澤大学
-----	------

1. 本事業対象となる学部等の状況

<合計>

[illegible]

大学名	駒澤大学
-----	------

2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

[illegible]

大学名	駒澤大学
-----	------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	3396	3396	3396																
		入学者数	人	3600	3515	3630																
	その他の学期	入学定員	人	***	***	***																
		入学者数	人	***	***	***																
	入学者合計	入学定員(A)	人	3,396	3,396	3,396																
		入学者数(B)	人	3,600	3,515	3,630																
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.06	1.04	1.07																
	収容定員等	収容定員(C)	人	13504	13426	13505																
		編入学定員	人	0	0	0																
		在籍者数(D)	人	14198	14400	14676																
		編入学者数	人	182	117	87																
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.05	1.07	1.09																

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定													
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		255,767	277,263	309,394	345,807	267,974	274,243	369,194												

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）（E）	千円	284,877
本事業による助成金の額(F)	千円	295,000
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	292,252

特記事項

「3.大学(学士課程)の状況」の「大区分」学生の入学・在籍状況、「小区分」収容定員等のR5年度、R6年度の編入学定員0人とは、若干名を意味している。
--